令和8年4月1日

令和8年度　# 港区立芝小学校学校経営計画

～地域の中の学校・芝小学校の教育活動　保護者・地域とともに～

港区立芝小学校
校長　磯野　智博

Ⅰ　学校教育目標

地域の方々に愛される学校、保護者が子どもたちを「通わせてよかった」と思える学校、教職員が教育活動に携わることによってやりがいを感じられる学校、そして子どもたちが「学校に来てうれしい、明日も楽しみ」と思える学校を目指し、多様で変化の激しい時代を生き抜くために徳・知・体をバランスよく培っていくことを踏まえ、以下の教育目標を定める。

○やさしい子(豊かな人間性)
自分のよさを肯定的に認めて自信をもつとともに、友達のよさや痛み、喜びを認めながら互いを尊重し、進んでかかわろうとする子を育てる。特に「いじめは絶対に許さない」ことを中核に据える。

○よく考える子(確かな学力)
知識や技能を確実に習得するとともに、友達とかかわりながら問題を見出し、これを解決する活動を通して思考力や判断力、表現力を身に付け、自ら概念を獲得したりこれからの自分のありようについての考えを広げたり深めたりすることができる子を育てる。

○げんきな子(健康・体力)
自分の健康や成長に関心をもち、自ら体力の向上や健康の保持・増進に努めて生き生きと活動できる子を育てる。

Ⅱ　経営方針

1　目指す学校像

○地域の方々に愛される学校
・地域の中の学校として、地域人材の活用、地域の教材化など、積極的に地域を活用する。
○保護者が「通わせてよかった」と思える学校
・一人ひとりの児童を大切にした教育を行い、自尊感情、自己有用感を高める。
・保護者との連携を密にし、保護者の期待に応える。
○教職員がやりがいを感じられる学校
・教師一人ひとりが、個の力を発揮でき、達成感を味わうことができる。
・教職員一人ひとりが学校経営に参画し、組織的な取組を行っていく。
○子どもたちが、「学校が楽しい、明日も楽しみ」と思える学校
・「学習して楽しい」「考えることが楽しい」「友達といることが楽しい」と実感できる。
・「自分は変われた」「もっと成長したい」と考えられるようになる。

2 目指す児童像

○思いやりのある豊かな心をもち、自他を大切にする子
○知的好奇心をもち、すすんで学び、粘り強く取り組む子
○健康な心と体をもち、生き生きと活動する子

3 目指す教師像

○人権尊重の精神を基調に、体罰・いじめ・差別のない学校づくりに努める教師
○研究と修養に努め、子どもの可能性を伸ばすプロ意識のある教師
○組織の一員として、協働体制で職務に当たる教師
○教育公務員としての自覚と誇りをもち、服務の厳正に努める教師

4 学校経営理念(基本的な考え方)

【判断基準】子どもたちのために　　　【方策】組織で、保護者・地域の方とともに
迅速・正確・丁寧・誠実・挑戦・感謝

(1) 経営理念

本年度、本校は148周年を迎える。その歴史と伝統によって培われてきた建学の精神と校風を継承するとともに、社会や時代の変化に対応できる新しい学校づくりに努めていく。また、子どもたち・教職員のウェルビーイングの向上を目指していく。

保護者・地域との連携・協働により「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すとともに、教育内容のより一層の充実に努め、児童の可能性を最大限に伸ばす教育活動を展開し、児童・保護者・地域の期待に応える。

(2) 基本理念に基づく学校経営の基本方針

① 生命尊重、人権尊重の教育の推進
・全教育活動を通じて生命の大切さを教え、共に生き共に学ぶ心の教育を推進する。
・全教育活動を通じて、児童相互・児童と教師の心の交流を深め、偏見や差別をなくし、不登校やいじめの防止・解決に努める。
・児童一人ひとりを大切にした教育を行い、自尊感情、自己有用感を高める。

② 学びの集団の創造と学力向上
・授業規律を確立し、全ての児童に、秩序ある学習集団の中での学びを保障する。
・基礎基本の定着を図るとともに、一人ひとりの個性や能力を生かすように努め、児童が互いに高め合う豊かな学びを推進する。
・児童の思いや願いを生かした学習を推進し、主体的な学び、対話的な学び、深い学びを実践し、学びの意欲を高める。
・特別支援教育を充実させ、個に応じた指導を推進する。

③ 学び続ける教師集団、協力・協働を大切にする教師集団の形成
・校内研究・研修の推進を図るとともに、自己の課題を明確にした授業改善に取り組み、授業力を高める。
・多様な校務を計画的に担当し、学校運営力・学校経営参画意欲を高める。
・年間計画に基づく週案を作成・提出し、教育内容の計画・実践・評価・改善に努める。
・組織の一員として、協働意識をもって職務を行う。

④ 連携・協力の推進

・保幼小の連携・交流、中学校との連携・交流を推進し、小１問題，中1ギャップ等の未然防止に努める。
・学校だより、学校HP、X 等を活用した学校からの情報発信に努め、学校公開、学校評価を実施する。
・学校周辺の環境や地域人材等を活かした教育活動を行う。
・家庭・地域と一体となって児童を育成するという視点に立つとともに、関係諸機関との連携により、課題の未然防止と解決に努める。

Ⅲ 経営目標

学校教育目標を達成するため、「中期経営目標」を設定し、これを達成するために具体的にどのような教育活動等を設定したらよいか考え、「短期経営目標」と具体的な活動を設定する。

その際、学習指導要領に示されている、子どもたちが身に付けるべき資質・能力及び、その実現を目指し授業改善の視点を踏まえて教育活動を行っていく。

＜子どもたちが身に付けるべき資質・能力＞

① 「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」
② 「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」
③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」

＜授業改善の視点＞

① 学ぶことに興味や関心をもったり、見通しをもって粘り強く取り組んだりする「主体的な学び」
② 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考えに触れるなどして、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」
③ 学習を通して得た知識を相互に結び付けて一層深く理解したり、情報を基に自分なりの考えを形成したりする「深い学び」

<table>
<tr><td colspan="2">重点領域 1</td><td>豊かな心の育成</td></tr>
<tr><td colspan="2">中期経営目標</td><td>・お互いが気持ちよく生活できる集団のあり方について理解促進を図る。
・自分で考え、判断し行動できる児童を育成する。
・自他を認める共生・協調の精神、郷土愛の育成を図る。</td></tr>
<tr><td colspan="2">短期経営目標</td><td>・友達のよいところを見付け、認め合える集団を育成する。
・校内の共通理解を図り、時と場にふさわしい行動ができる集団を育成する。
・他者とのかかわりを通して、思いやりの心や自己有用感、郷土愛を育成する。</td></tr>
<tr><td>項目</td><td>努力指標(教師側)</td><td>成果指標(子ども側)</td></tr>
<tr><td>1</td><td>全学級でいじめに関する授業年３回以上、５，６年生でSOSの出し方の授業を年１回行い、いじめの未然防止に努める。</td><td>友達のよいところを見付け、誰とでも仲よくすごすことができたという児童の割合 85％以上。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>自ら考え、時と場に応じた適切な行動がとれるよう指導する。(挨拶、移動、集合、時間など)</td><td>低:きまりを守って行動できた。
中・高:きまりを守り、自分で考えて行動できたという児童の割合 85％以上。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>地域と連携し、地域人材や施設、地域環境を生かした学習活動を各学年１回以上実施する。</td><td>地域の方や地域の施設・環境などに触れ、地域のよさを感じることができたという児童の割合85％以上。</td></tr>
</table>

＜教育活動＞
・あいさつや教室移動、集合したときなど、時と場に応じた適切な行動がとれるようにする。
・特別の教科道徳の一層の充実を図り、考え・議論する活動を通して、物事を多面的・多角的にとらえ、自分の生き方について考えられるようにする。
・全学級で、いじめに関する授業を年3回、5，6年で「SOS の出し方」についての授業を年1回実施する。また、児童がいじめ防止に向けて主体的に取り組む活動を行う。
・なかよし班活動や学習での異学年交流を通して、互いを「愛おしむ」気持ちを育てる。
・4年生以上の有志による「シンフォニックブラス」の地域行事への参加、希望者が出演する「ミニコンサート」を実施する。
・図画工作科での成果を中心に、年間を通して校内掲示・作品展示を実施し、一人ひとりのよさを発揮する場とするとともに、他の人のよさを感じる場とする。
・人権週間に「人権集会」を実施し、各学級で作った標語を発表するなど、学校生活の改善を図りながら人権感覚を養う。
・地域と連携し、地域人材や地域の環境、施設を生かした学習活動を各学年年1回以上実施する。

<table>
<tr><td colspan="2">重点領域　2</td><td colspan="2">授業改善と学力の向上</td></tr>
<tr><td colspan="2">中期経営目標</td><td colspan="2">規律ある学習集団を築き、基礎基本を確実に習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を推進する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">短期経営目標</td><td colspan="2">・授業規律の確立と、基礎学力・活用力の定着を図る。
・自分の考えをもつ時間と交流時間を設け、自己の考えの確立とその深まりを図る。
・タブレットを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を追究する。
・国際科の学習を中心にした、国際理解教育の充実を図る。</td></tr>
<tr><td>項目</td><td colspan="2">努力指標(教師側)</td><td>成果指標(子ども側)</td></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="2">授業規律を確立し、児童の実態を把握した授業を行い、基礎学力の定着と活用力の向上を図る。</td><td>学習がよく分かるという児童の割合 95％以上</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">1 時間または単元の中に自分の考えをもつ時間、互いの考えを交流する時間を効果的に設定し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。</td><td>低：自分の考えをもち、友達の考えのよいところをみるけることができた。
中：自分の考えと友達の考えの同じところ、違うところを見付けることができた。
高：自分の考えと友達の考えの共通点、差異点に気付き考えを広げたり、深めたりできた。
とする児童の割合90％以上</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2">タブレットを効果的に活用し、児童の主体的な学び、協働的な学びを推進する。また、複線型の授業に挑戦する。</td><td>タブレットを活用しながら進んで楽しく学習を進め、理解を深めることができたという児童の割合90％以上</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="2">国際科の授業の充実を図り、楽しく英語によるコミュニケーションが取れるようにする。また、自他の国のよさが分かるような活動を行う。</td><td>低：国際科の学習を友達と関わりながら楽しくできた。
高：英語を使って友達や先生とコミュニケーションをとることができた。また、日本のよさや外国のよさを知り、理解を深めることができた。
とする児童の割合85％以上</td></tr>
</table>

＜教育活動＞
・全教員が授業におけるルールやマナーを共通理解・実践し、授業規律を確立する。
・「読み・書き・計算」という基礎的な知識や技能の定着を図る。また、算数少人数指導（3～6年生）で習熟度別、個に応じた指導を実施し、基礎基本の定着を図る。
・児童が学習課題を把握し、自分の考えをもつための時間、互いの考えを交流するための時間、また、言語活動を計画的に取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
・タブレット端末を効果的に活用し、個別最適な学びや協働的な学びを推進する。また、複線型の学習の充実を図る。
・本に親しむ活動（学校図書館の計画的な活用・充実、保護者ボランティアによる読み聞かせ等）を通して、読書活動の充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かす。
・体験的な学習をはじめとする、多様な学習活動を設定し、児童の主体的な学び、課題解決学習に生かす。
・国際理解教育の充実を図るため、国際科の授業で外国語を使ってコミュニケーションを楽しんだり、日本の伝統文化の理解をはかったり、大使館との交流を通して国際感覚を育んだりする。
・ビオトープや地域の自然環境を生かし、環境教育の推進を図る。

重点領域　3	体力・運動能力の向上、健康の保持・増進	
中期経営目標	・心身の健康・安全に興味関心を高める。 ・基礎体力と運動能力を高め、丈夫で耐性のある心身をつくる。 ・自分の健康を自分で管理する能力を高める。	
短期経営目標	・運動する習慣を身に付け、体力を向上させる。 ・健康でいるために必要なことに目を向けられるようにする。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（子ども側）
1	１日１回以上は、外遊び、体育館遊び、屋上遊びなど、体を動かして遊ぶことを指導する。	休み時間、校庭や体育館、屋上などで元気に体を動かせたという児童の割合90％以上
2	１時間の体育の授業の中で、場の工夫、活動の展開、ルール等を工夫して運動量を確保し、体力向上を図る。	体育の授業で、十分に運動ができたという児童の割合90％以上
3	体育の学習や長縄跳びなど、目標をたて達成に向けて取り組めるよう指導する。	体育の学習や長縄跳びなどで目標を立てて取り組み、目標が達成できたという児童の割合 85％以上。
4	手洗いやうがい、運動や食事など、自分の身体を健康に保つために必要なことを理解する。	自分の健康に気を付けて生活できたという児童の割合90％以上。

＜教育活動＞
・校庭で遊べる日には、「外に出て元気に遊ぶ」指導をする。
・運動量の確保、運動の楽しさ、喜びを感じられるよう、体育科の授業を充実させる。
・体育朝会での、チャレンジジャンプ（長縄）に全校で取り組む。
・スポーツテストや、運動の記録をとることにより、自身の変容に気付かせる工夫をする。
・ボルタリングを活用し、体幹、柔軟性などを向上させる。
・食と健康の関係について理解させるため、給食の献立や「かみかみデー」「おなかすっきりおそうじデー」など献立テーマなどで食育を行ったり、食農教育で食材についての理解を深めたりする。

Ⅳ　教育目標の達成を保障するための諸条件の整備

教育目標達成のため、以下の諸条件を整えていく。いずれも、地域の方々、PTA の皆様の御理解と御協力をいただくとともに、港区教育委員会とも密に連携を取りながら進めていく。

(1)　一人ひとりの実態に応じた支援の充実

子どもたち一人ひとりの特性を生かした教育を行うため、複数の目で子どもたちを見て、働きかけを行う。また、タブレット端末なども効果的に活用し、個別最適な学びの実現を図る。特別支援教室の活用、スクールカウンセラー(2名)やスクールソーシャルワーカー、スペシャルニーズアシスタント等を活用し、保護者の方々と連絡を密に取りながら、支援を行っていく。

(2)　カリキュラム・マネジメントの実現

計画的に、複数の教科を一緒に扱ったり、教科等横断的な学習を行ったりすることを通して、子どもたちが学んだことを様々な場面で生かせるようにする。

(3)　GIGA スクール構想に基づいた取組

ICT を効果的に活用し、個別最適な学びや協働的な学びを行うとともに、情報処理能力、情報モラルの育成を図っていく。

(4)　いじめ防止基本方針

「いじめは決して許さない」ことを念頭に置き、子どもたち一人ひとりが相手の立場や考えを理解しながら良好な関係を築けるようにする。一方で、「いじめはどこでも、だれにでも起きうる」ことを忘れず、保護者と連携を取りながら、未然防止、早期発見に努め、適切に対応する。

(5)　複数の教員等での対応

本校は、学級担任、専科教員、特別支援教室担当教員の他、多くの講師やスペシャルニーズアシスタント、介助員等が教育活動にかかわっている。また、高学年を中心に、教科担任制を行っている。複数の教員等で子どもたちを見つめ、様々なよさを見出したり一層適切に対応したりしていく。

(6)　アレルギー対応等の一層確実な推進

子どもたちが、おいしく楽しい給食を安全に食べられるように、子どもたちの実態を把握し、保護者の方々に協力をしていただきながら、確実に推進していく。

(7)　幼・小中一貫教育の推進

三田アカデミー(三田中学校、赤羽小学校・幼稚園、御田小学校、芝小学校)や近隣保育園、幼稚園との連携を深め、小1問題、中1ギャップ等の未然防止に努め、「円滑な接続」ができるようにする。

(8)　環境教育の推進

各学年、学校ビオトープや学校周辺の環境を活用した教育活動を取り入れ、身近にある自然に目を向ける。みなエコプログラムなどを活用し、環境に良い生活を考え実践できるようにする。

(9)　学校運営協議会・地域学校協働本部の活用

地域学校協働本部は、多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるための働きをする場である。本校では、PTA の皆様の力も借り、玄関装飾、校外学習等のボランティア、図書ボランティア等の活動を中心に、教育活動の一層の充実を図っていく。

(10)　教職員の働き方改革

教職員が元気に、笑顔で子どもたちと向き合うことができ充実した教育活動が行えるよう、校務のシステム化や校務分掌を見直し会議の精選を行うなどして、教職員の働き方改革を推進する。